

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

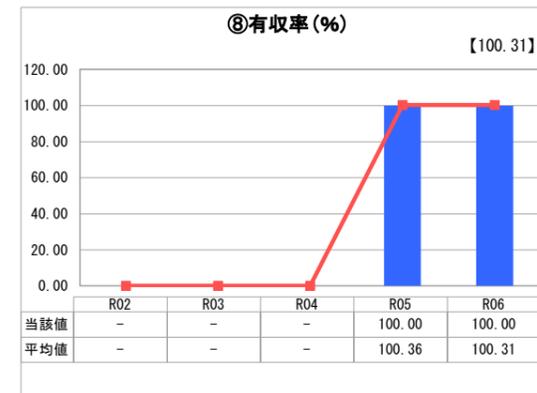
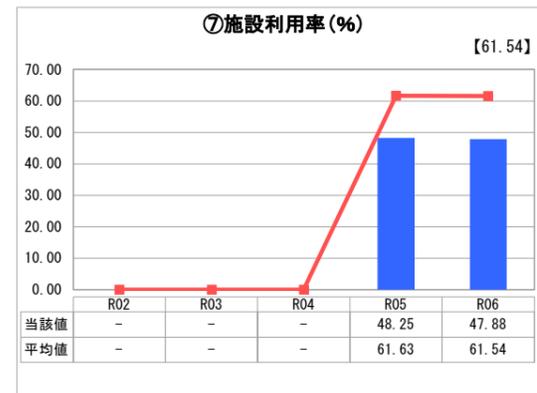
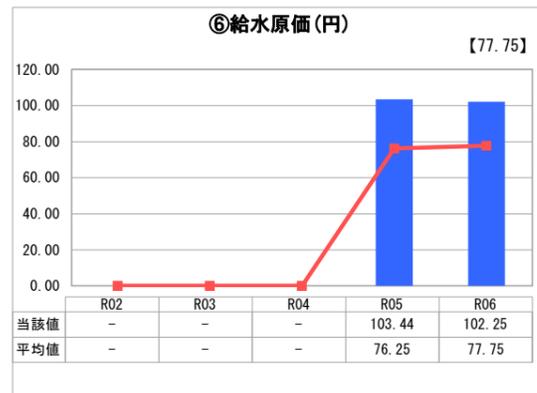
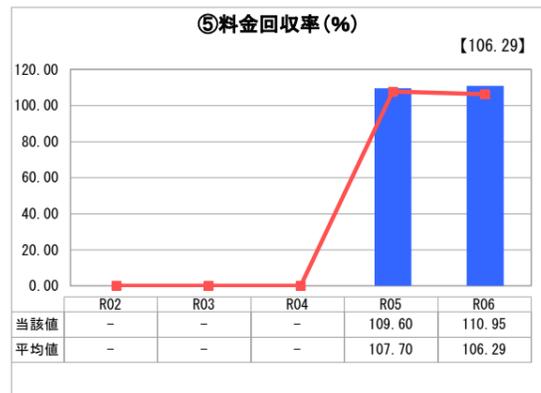
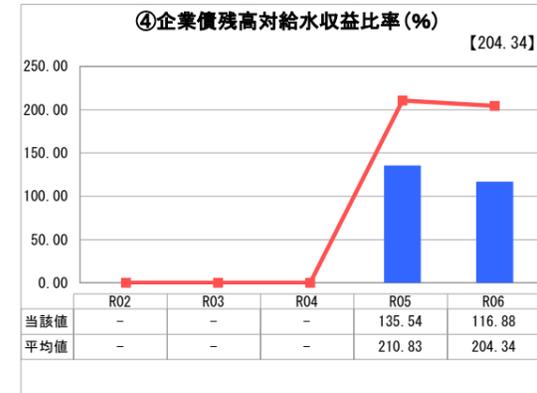
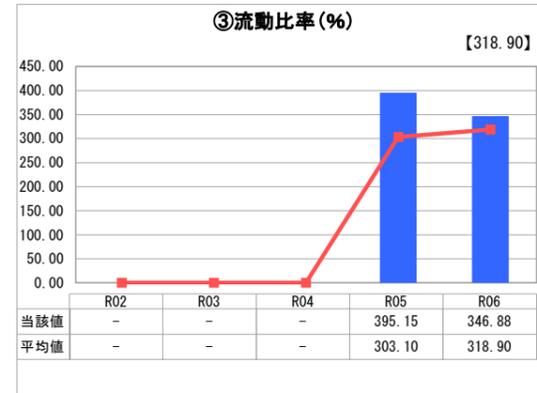
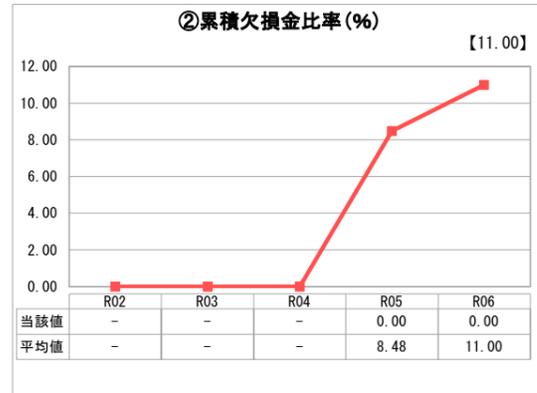
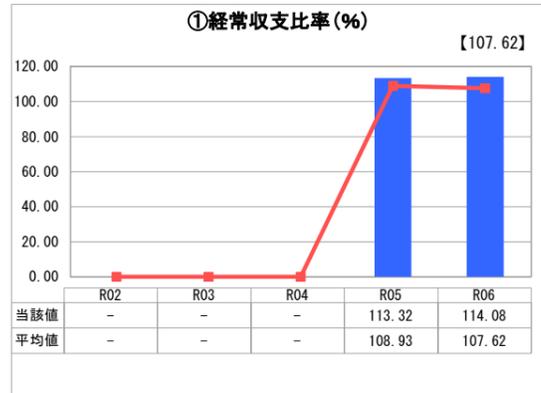
広島県 広島県水道広域連合企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	用水供給事業	B	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	88.21	96.73	0	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,618,273	1,334.20	1,962.43

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

【①経常収支比率、②累積欠損金比率】  
 経常収支比率は健全経営の水準となる100%を上回っており、また累積欠損金もないことから、堅調な経営を維持している。

【③流動比率】  
 短期債務に対し支払い可能な現金等の保有状況を示す流動比率は100%を上回り、支払能力を確保している。

【④企業債残高対給水収益比率】  
 企業債の発行抑制に努めたことにより、企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値（以下「平均値」という。）を下回っている。

【⑤料金回収率】  
 給水に係る費用を給水収益で賄うことができる100%を上回っている。

【⑥給水原価】  
 管路延長が長く、管路等の更新費用及び維持管理費用が高いため、給水原価は平均値に比べて高い水準にある。

【⑦施設利用率】  
 施設利用率は平均値を下回っている。これは、計画給水人口に対する現在給水人口が低く、水需要が建設当初の計画水量まで伸びていないためである。

【⑧有収率】  
 有収率は100%を維持している。

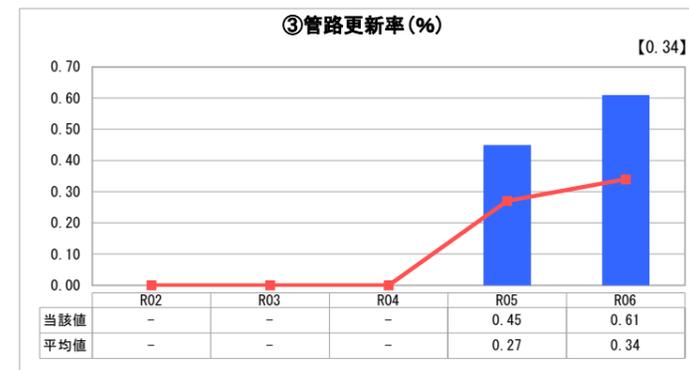
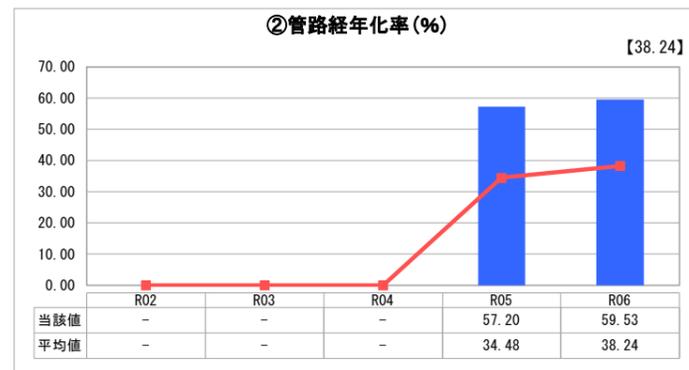
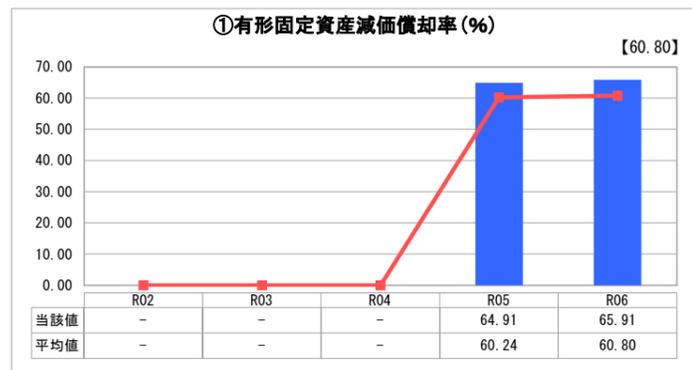
### 2. 老朽化の状況について

【①有形固定資産減価償却率】  
 有形固定資産減価償却率は平均値を上回っており、資産の老朽化が進んでいる。

【②管路経年率】  
 管路経年率は平均値を上回っている。優先度の高い管路から順次耐震管に更新しているものの、昭和40～50年代に布設した管路が多く、老朽化が進行している。

【③管路更新率】  
 管路更新率は、平均値を上回っており、今後は上下水道耐震化計画に則り、災害に強い耐震性のある管路に更新していく。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

水道用水供給事業の経常収支比率は100%を上回っており、現時点で、堅調な経営を維持している。

しかし、社会情勢の変化に伴い、資材価格の高騰や工事費等の費用が大幅に増加するなど、今後、一層厳しい経営状況が見込まれる。

本水道企業団では、中長期的な収支見通しなどを勘案しつつ、統合のスケールメリットを活かし、施設の最適化や更新、コスト削減を図るなどして、効率的な事業運営を進めていく。